

鬼は外！福は内！園児が節分の豆まき

めぶきの森かんらでは2月3日、節分の豆まきが行われました。

「今日だけは、みんなを泣かせていいんだよね」「鬼になるぞ」と年長組の園児20人が、粘土と和紙で作った色とりどりのお面をかぶり、鬼になりきりました。

太鼓の音に合わせ「泣く子はいないか、怒りん坊はいないか」と各教室を回ると、部屋の中で待っていた園児たちは思わず後ずさりしたり先生の後ろに隠れたりしていましたが、最後には紙を丸めた「豆」を精一杯投げ、鬼を追い払いました。



めぶきの森かんら

鬼に扮した年長組園児の登場に表情が固まる1歳児クラス



かんら保育園

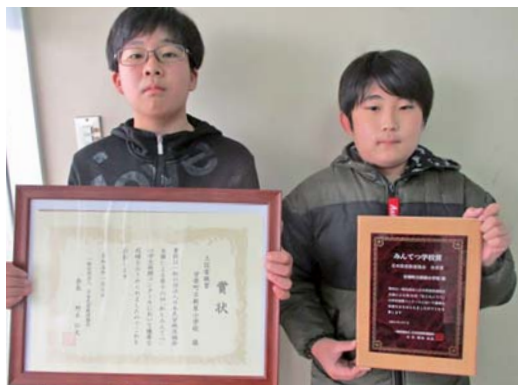
▲鬼に向かって紙の豆を投げる園児
◀行事食の恵方巻きを通じた「食育」

かんら保育園でも同日、節分会が開かれました。

先生による豆まきの寸劇を見た後に突然鬼が現れると、その迫力に泣き出ししてしまう園児もいました。園児は自分の心の中から追い出した鬼を紙に書いて胸に張っており、「甘えん坊鬼」「グズグズ鬼」などと書かれた紙を鬼に持って帰ってもらおうと、「怖かった」や「おうちでも豆まきをするよ」などと口々に話しました。

給食では恵方巻きが提供され、今年の恵方である南南東を向いて黙って食べ、また1年元気に過ごせるよう祈りました。

鉄道を知って学んで 新聞コンクールで入賞



「上信電鉄賞」の賞状と「みんてつ学校賞」の盾を持つ6年生の児童

第16回「私とみんてつ」小学生新聞コンクール((一社)日本民営鉄道協会主催)において、新屋小学校が「みんてつ学校賞 日本民営鉄道協会会長賞」を受賞しました。また、各社沿線の小学校で顕著な取り組みがあった学校として、「上信電鉄賞」に新屋小学校と福島小学校の2校が選ばれました。このコンクールは、新聞作成を通じて鉄道の役割や暮らしと環境について考えるきっかけになるよう児童が取り組んだものです。

上信電鉄の車内では、1月に福島小学校、2月に新屋小学校高学年の作品を展示、3月14日までは同校低学年の作品が展示されています。運行ダイヤについては、上信電鉄株式会社鉄道部(☎027-323-8073)にお問い合わせください。

交通安全推進に尽力 田村さん

交通指導員として12年にわたり活動された田村雅人さん(秋畑)に2月1日、群馬県知事から感謝状が贈られました。

町では、現在10人の交通指導員(飯塚 章隊長)が災害発生時や各種イベントなどの際に、交通秩序の保持と交通事故防止のため交通整理を行っており、交通安全運動期間などには、街頭に立って町民の皆さんの安全を守るために活躍されています。

このほか、交通死亡事故の発生を一定期間抑止したとして、町交通対策協議会が団体表彰されました。



キウイフルーツで県知事賞を受賞 山田さん



来期の収穫に向けて、冬はキウイフルーツ畑の剪定作業をしていると話す山田さん

第34回群馬県キウイフルーツ品評会が1月24日、県庁で開かれました。形状や糖度、硬度などが審査され、山田省吾さん(轟)の「ヘイワード」が最高賞の知事賞に選ばれました。

昨年は適度な降雨によりたくさん収穫できたという山田さんは「酸味と甘味のバランスが良くみずみずしいキウイを皆さんに食べてもらいたいです。多くの人に果樹栽培に興味を持ってもらい、担い手が増えることを願っています」と話されました。

町内生産者の栽培技術と品質は高く、県議会議長賞に柴山雄雄さん、県農業協同組合中央会代表理事会長賞に田村美サ江さん、上毛新聞社賞に山田朝子さん、全国農業協同組合連合会県本部運営委員会会長賞に柴山潤壺さん、銅賞に柴山シズ子さん(いずれも轟)が選ばれました。

温かく見守ります 認知症サポーター養成講座

町では、多くの人に認知症を正しく理解してもらい、地域で認知症の人やその家族を支えるため「認知症サポーター」を養成し、やさしいまちづくりに取り組んでいます。その一環として2月9日、甘楽中学校の2年生を対象にサポーター養成講座が開催されました。

町の認知症地域支援推進員から「脳の病気や障がいなどが要因で記憶障がいなどの症状が現れるので、周囲の人が気づき適切に接し、認知症の人とともに生き、温かく見守る応援者になってほしい」と説明を受けました。

黒澤実菜さんは「学んだことを忘れず、必要な場面で適切な対応がとれるよう心掛けていきたいと思います」と感謝の言葉を述べました。



認知症の人が見ている“世界”を理解するために視野の狭さを体験し、声の掛け方を学ぶ生徒